



大里文化会 事務局長

ガイド

石崎正行さん

大里文化会

大里の歴史の紹介、講演や柳御所資料室での資料保存。また、門司みなと祭や戸上神社の御神幸祭での柳御所清掃活動や長崎街道に関する事業を行っています。

ゆっくり歩き おもてなしガイド

大里編



今日は、「大里文化会」の石崎さんに、安徳天皇ゆかりの「風呂の井戸」と、会が資料を収集・保存している柳の御所にある資料室をご案内いただきました。

Q 大里にはどんな歴史が残されていますか？

大里には、平安末期、江戸時代、明治時代の3つの歴史的なポイントがあります。もともと柳の太木があったことから「柳」や「柳ヶ浦」と呼ばれていたこの周辺は、源氏に追われた安徳天皇を奉じる平家が仮の御殿を設けて滞在したことから「柳御所（やなぎのごしよ）」、「一帯は「内裏」と呼ばれることとなりました。

この後に起こった「壇ノ浦の戦い」で平家は滅亡しました。ところで、「源平合戦」の名残が、今も私たちの身近に残っていることをご存じですか？

それは、運動会の赤白の組み合わせです。源氏が白、平家が赤に分かれて戦ったことに由来しているのです。



—ええ！そうなんです！

平家滞在の名残は、現在も地名や苗字に残っています。

江戸時代に入ると、参勤交代により九州の諸大名が大里から渡航することが多くなり、大里は宿場町として繁栄しました。北九州麦酒煉瓦館前の松や、赤坂まで続く海岸沿いの松並木は、当時の街道の名残です。この地は「入日の松原」とも呼ばれ、美しい夕陽の名所として知られていました。また、大里宿には長崎奉行所の出張所である長崎番所が置かれ、貿易の要所でもありました。享保の頃には、それまで「内裏」と呼ばれていた地名が「大里」へと改められました。

明治時代に入ると、1902年（明治35年）、明治天皇が熊本での陸軍大演習を視察するため、下関から大里に上陸し、大里駅を利用しました。これに伴い、大里駅から伸びる道が拡張され、「御幸通り」と名付けられました。

Q 大里郷土資料室はどんな場所ですか？

歴史を伝える貴重な資料が、本会によって保存・展示されています。地名の度重なる変更や、長州藩との戦争による宿場町がほぼ全焼したこともあり、当時をそのまま伝えるものは少ないですが、石碑の建立や写真・文章の記録を通じて、後世へと伝えていく取り組みを行っています。



資料室には常駐のスタッフはいません。見学を希望される場合は、事前に区役所へお問い合わせください。

Q 何かこれまでの活動で印象に残っているエピソードはありますか？

都落ちした平家の中に、「平清経」という人物がいました。彼は

世をはかなんで、ここから船に乗り、海へ身を投げました。この出来事は、観世流の能の演目『清経』のもとになっています。2005年には、この場所に舞台を作り、新能の公演を行いました。なんと600人もの観客が訪れ、大盛況でした。

Q 他にも歴史を感じる場所がありますか？

「風呂の井戸」です。安徳天皇が旅の疲れを癒すために使ったとされる井戸が残っており、現在も水が湧き出ています。この周辺の字名は「風呂」で、門司駅前正面の「不老通り」にその名をとどめています。



Q 若い世代に向けてメッセージを

歴史を学ぶ機会があっても、地域の歴史に触れることは意外と少ないと感じます。地域の小学校や中学校の子どもたちが、一度はここを訪れ、地元の歴史を肌で感じてくれたら嬉しいですね。



石崎さんのガイドは
こちらからご覧いただけます



石崎さんのミニ情報

日本各地への転勤を経て、生まれ故郷の大里に戻られたそうです。「柳の御所に一番近いから」という理由で事務局長を務めていると、笑いながら話してくださいました。また、その御所から徒歩5分ほどの場所で、奥様とともに「ギャラリーカフェ柳庵」を営んでいらっしゃいます。寒い日だからと、お気遣いいただき、出発前に美味しいコーヒーを淹れてくださいました。

北九州風景街道（長崎街道）推進協議会は団体・機関の官民協働で活動を行っています。